

西原町男女共同参画行政の状況

平成22年度活動状況

6/22
~29

男女共同参画週間
パネル展示



12/8
~10

さわふじプラン地域
推進員全体会



6/27

西原町長杯
さわふじミックス
ダブルステニス大会



12/9

男女共同参画推進
条例学習会
講師：大城貴代子先生



11月
より

西原町イクメン集団
さわふじパパ研修会
開催



3/11

西原町さわふじ
懇話会



3/18

西原町男女共同参画
事業
「めいどーやがやー?本音
トーク!」
西原町・女団協共催



【研修報告】

「日本女性会議2010きょうと」 に参加して



開催日：平成22年10月1日(金)～3日(日)
場所：国立京都国際会館(京都市)
参加者：與那嶺 絹子(女性の翼の会)

日本女性会議は、1975(S50)年の「国際婦人年」と、それに続く「国連婦人の10年」を記念し、1984(S59)年に名古屋市で第1回大会が開催されました。

以来、男女共同参画社会の実現に向けた課題の解決策を探るとともに、参加者の相互の交流の促進や情報のネットワーク化を図ることを目的とした全国的規模の会議として定着しております。

今年は京都市で27回目の開催でした。「ひとりひとりが輝く・色彩あふれる世界へ」を大会テーマに平成22年10月1日(金)～10月3日(日)の間、国立京都国際会館にて開催されました。

第1日目の分科会は11のテーマに分かれて同時開催され、第2日目は開会式、基調報告、記念講演、パネルディスカッション、閉会式の日程でした。

内閣府男女共同参画局長 岡島敦子氏の基調報告のお話の中に、「男女共同参画を実現するためには、政府の取組はもとより、地方公共団体、民間団体、さらには、国民一人ひとりが自らの課題と認識し、共に連携しながら、取り組んでいかなければなりません。」とありました。

記念講演では、千葉県的女性弁護士第1号として活躍しながらお二人のお子様を育て、仕事と家庭生活を両立してこられた渥美雅子さんと、それを仕事・家庭の両面から支えてこられた剛治さんご夫妻が、お二人のこれまでの経験談を講談でおもしろ、楽しく演技を披露してくれました。渥美夫婦の子育てのモットーは、

- 1、子どもの悩みは親が解決するんじゃなく子ども自身で解決させる。
- 2、18歳になったら家から出し自立させる
- 3、子どもとはつかず、はなれずの関係を保つ

この3つを挙げられ、これから子育てをする方には大変参考になるお話でした。

分科会では、私は、第8分科会に参加しました。京都府発～市民ぐるみの人づくり～のテーマで「大人による、子どもが健やかに育つ環境づくり、大人みんなで考える子どもための環境づくり」についての分科会でした。「子どもたちのために、今、大人として何ができますか?」という問いかけのもと、子どもたちの健やかな成長には、仕事と家庭生活の両立など、父親・母親の役割の枠を超えて、家庭・地域・企業など様々な方々が世代を超えて共に支えあう社会を築くことが必要であると実感しました。

またこの分科会では、スポーツコメンテーターの奥野史子さんによる基調提案があり、「人生は1回しかない。いま出来ることをやってみよう。」「子育てにおいても、環境づくりが大事。本人が目覚めたときに応援してあげる。支えてあげる。そっと見守る。そんな両親・地域とのネットワークがあり、周りの協力を得ながら子育てをすることができた。」

「応援してくれた地域の方にはきちんとありがとうと誠意を示すことが大切だ。その姿を見ている子どもたちからも信頼される親になろう。」とご自身の体験談から学んだことを提案していました。そして最後に、「世界の宝である子どもを世界で育て、地域で育て、みんなで育てることが大切だと述べ、「人づくりとは子どもだけでなく、大人づくりも大事である。赤信号でも弱者が知らないで渡るかもしれない。そのときに止まれる運転者になれるように大人自身も育たないといけません。」と締めくくった。そのあと「人づくり21世紀委員会」からのパネルディスカッションで全日程が終了しました。

今回の会議には、延べ3200名余の参加者があり、男女共同参画社会は、次世代の人達に、先輩達が楽しく生きる姿を見せることが大事なのではないかということ学ばせてもらった。このような会議に参加する機会を与えてくださったことを関係者の皆様へ感謝し、報告いたします。

